

GIGA校内研修推進リーダー研修②

実践発表

石川県立金沢辰巳丘高等学校

発表内容

- 1 実施計画と校内研修
- 2 取組の成果と課題
- 3 授業実践例

令和3年度 GIGA校内研修 年間計画

(石川県) 立 (金沢辰巳丘高等) 学校
GIGA校内研修推進リーダー (熊切 道人)

目標の達成に影響を与える現状	
＋ (強み)	－ (弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用しようとする人材が、若手を中心に一定数いる。 生徒の実態に沿った授業を展開する教員が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 機器の設定やメンテナンスを完全に理解している教員が少ない。 教員数が少なく、多忙で校内研修や授業準備に時間をかけられない。

校内研修のアイデア
<ul style="list-style-type: none"> 活用者によるこれまでの実績を共有する。 公開授業、研究授業で生徒用端末を活用し、成果と課題を蓄積、整理する。 教科、経験年数、ICT機器の習熟度合いなどを考慮した3人1チームで実践を蓄積する。(公開授業は必ず互いに見合う。) 若プロで各チームからの情報を共有する。(若プロ研修後に10分ほどで実施) 困り感(授業内容、活用方法、機器利用、メンテナンスなど)を出し合い、解決策(うまくいった方法、解消方法など)を蓄積する(年間を通して随時)。 生徒の変容や習熟度の共有、端末を上手に使いこなす生徒の把握、機器の使い方のルール策定、情報モラル教育を行う(年間を通して随時)。

目標「令和3年度末にめざすICTを活用した学びの姿」
<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が、自分の考え(授業などの課題、成果物、制作物)を、他者と共有・協同制作・相互評価することができる。 全教員が、担当する教科でICT機器を効果的に授業に取り入れた指導を行うことができる。

月	研修テーマ [研修形態]	担当	関連する行事等
4月	年間研修計画についての説明会【全体研修1】 動画視聴による研修(ステージ1・2)【個人・一部全体】		4/30(金)第1回GIGA校内研修推進リーダー研修*中間計画発表
5月	機器操作・実践事例報告【全体研修2】動画視聴による研修(ステージ3)【個人】1学期公開授業にむけて(随時)【チーム】若プロ研修会後の報告会1【若プロ】	熊切 島崎	5/7(金)新たな授業づくり研修受講状況報告一次締切
6月	公開授業(随時)【チーム・個人】 若プロ研修会後の報告会2【若プロ】	熊切 島崎 井上	
7月	公開授業(随時)【チーム・個人】 若プロ研修会後の報告会3【若プロ】	熊切 島崎 井上	
中間 目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、自分の考えを他者と共有するスキルを習得している。 全教員が端末の基本的な操作方法を習得する。 		
8月	1学期実践事例の報告【全体研修3】 2学期公開授業にむけて(随時)【チーム】	熊切 島崎	
9月	公開授業(随時)【チーム・個人】 若プロ研修会後の報告会4【若プロ】	熊切 島崎 井上	第2回GIGA校内研修推進リーダー研修*発表資料発表
10月	モデル校視察発表会【全体研修4】 公開授業(随時)【チーム・個人】	熊切 島崎	
11月	公開授業(随時)【チーム・個人】 2学期公開授業の振り返り【チーム】 若プロ研修会後の報告会5【若プロ】	熊切 島崎 井上	
12月	2学期実践事例の報告と振り返り【全体研修5】 最終公開授業にむけて【チーム・個人】	熊切 島崎	
中間 目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、他者と協同制作・相互評価するスキルを習得している。 全教員が、ICT機器を情報活用・言語活動・協同学習などの場面で効果的に授業に取り入れている。 		
1月	公開授業(随時)【チーム・個人】	熊切 島崎	
2月	公開授業(随時)【チーム・個人】 今年度の振り返り【個人・チーム・若プロ・全体】	熊切 島崎 井上	
3月	来年度にむけて【全体研修6】	熊切 島崎	2/4(金)第1回GIGA校内研修報告書締切 新たな授業づくり研修受講状況報告書最終締切

目標の達成に影響を与える現状

+ (強み)

- ・ ICTを活用しようとする人材が、若手を中心に一定数いる。
- ・ 生徒の実態に沿った授業を展開する教員が多い。

- (弱み)

- ・ 機器の設定やメンテナンスを完全に理解している教員がいない。
- ・ 教員数が少なく、多忙で校内研修や授業準備に時間をかけられない。

- ・ 教諭 25名のうち若プロメンバーが 11名
- ・ ほぼ全ての教科に若プロメンバーが 1名以上在籍
- ・ 各職員室、校務分掌にも若プロメンバーがバランスよく在籍

校内研修のアイデア

- 活用者によるこれまでの実績を共有する。
- 公開授業、研究授業で生徒用端末を活用し、成果と課題を蓄積、整理する。
- 教科、経験年数、ICT機器の習熟度合いなどを考慮した3人1チームで実践を蓄積する。（公開授業は必ず互いに見合う。）
- 若プロで各チームからの情報を共有する。（若プロ研修後に10分ほどで実施）
- 困り感（授業内容、活用方法、機器利用、メンテナンスなど）を出し合い、解決策（うまくいった方法、解消方法など）を蓄積する（年間を通して随時）。
- 生徒の変容や習熟度の共有、端末を上手に使いこなす生徒の把握、機器の使い方のルール策定、情報モラル教育を行う（年間を通して随時）。

教諭24名を8チームにし、若プロの教諭をチームリーダーとした。

**5月：生徒のIDとパスワード再設定、基本操作理解
職員会議で校内研修の実施方法を報告、承認
若プロで1回目のGIGAについての研修会**

6月：生徒機の本格的な運用を開始

7月：職員会議後10分研修

(Jamboradを使ってチームの公開授業の予定日を決めよう)

8月：職員会議後10分研修

(Chromebookでロイロノートを使ってみよう)

7月：職員会議後10分研修

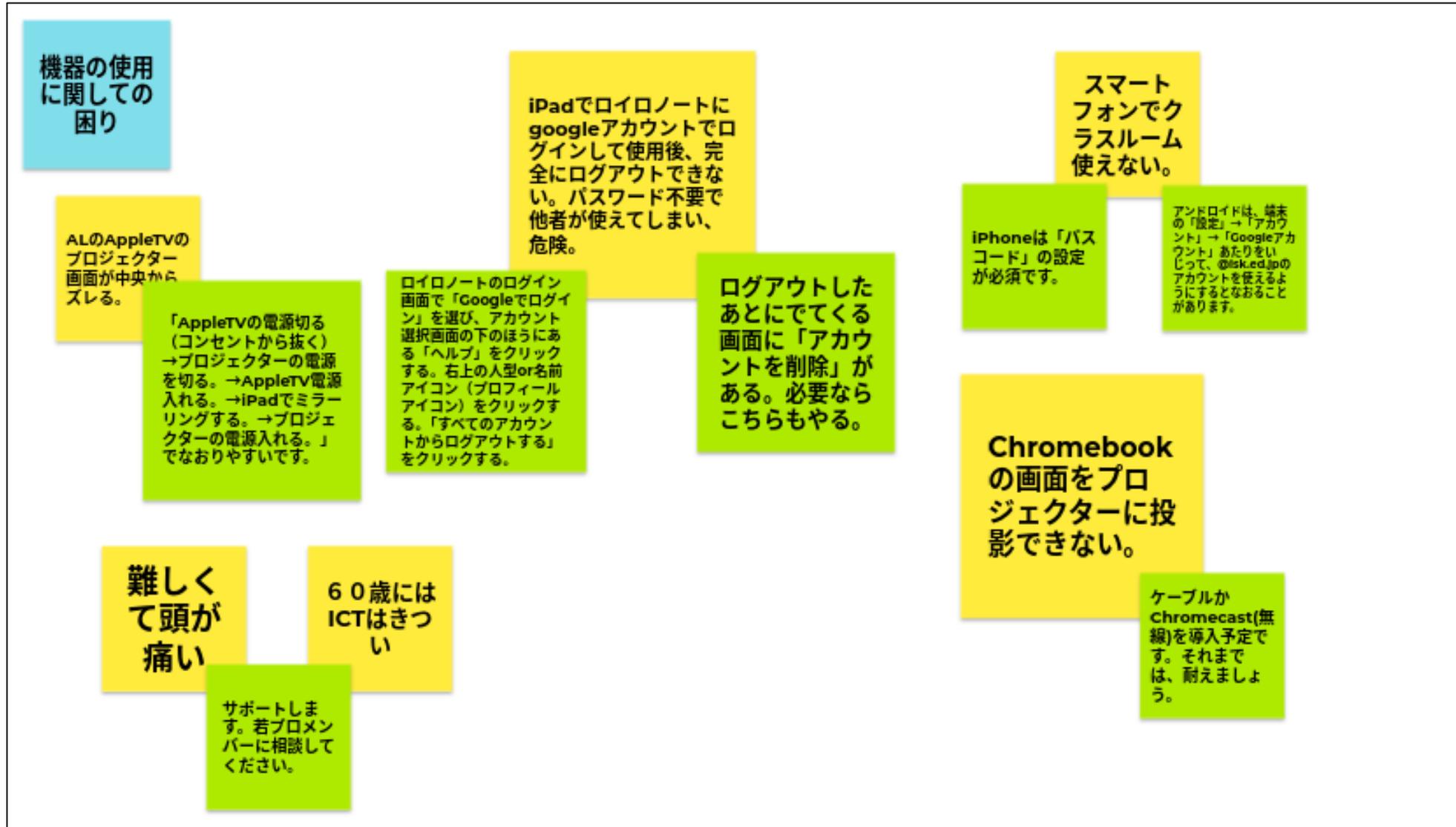
(Jamboradを使ってチームの公開授業の予定日を決めよう)



*** 共有機能を体験するために、チームごとではなく、自分の席のままでチームのことを相談した。**

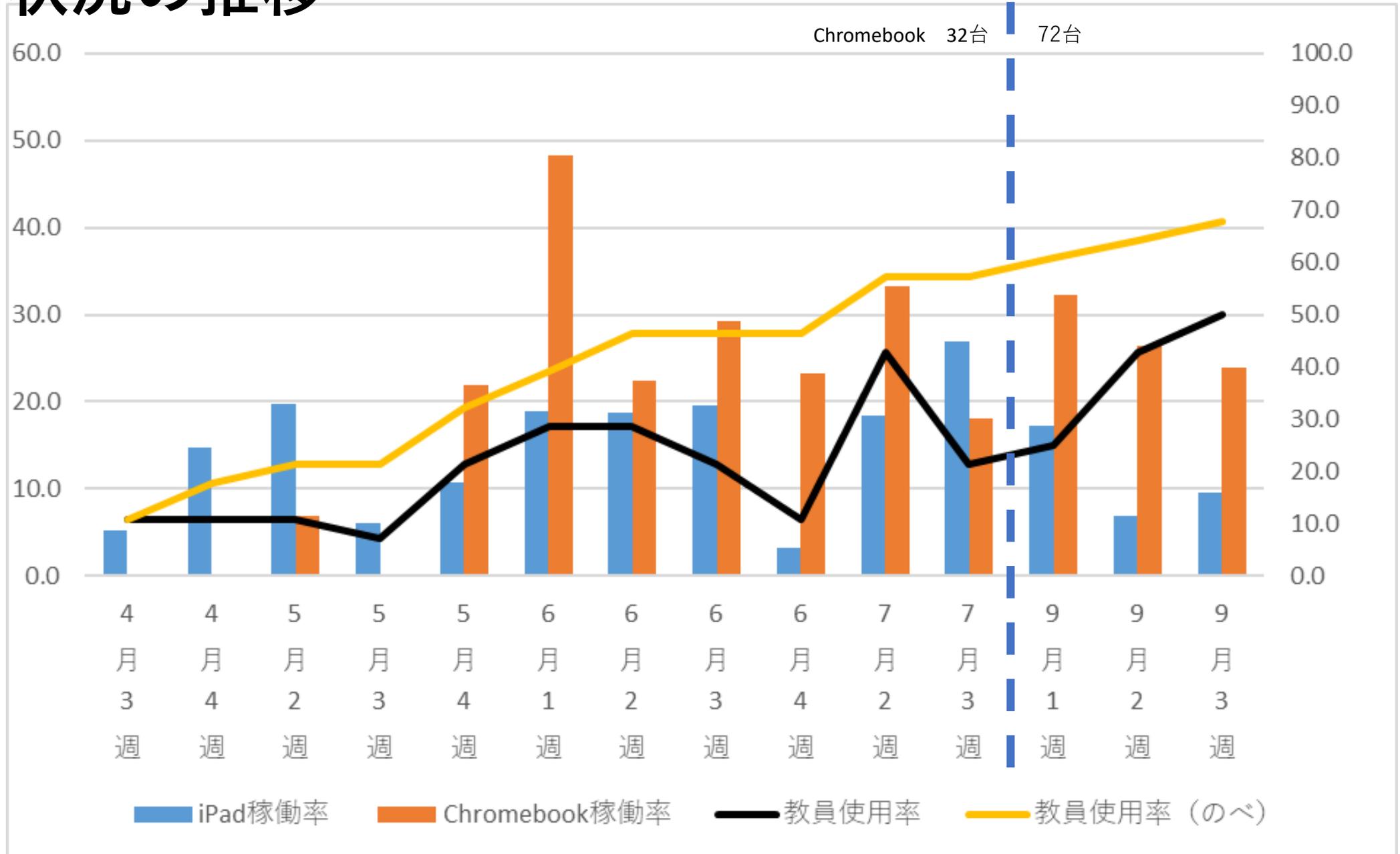
情報の共有方法

生徒が使うアプリケーションに慣れるために、Jamboardを利用



2.成果と課題

利用状況の推移



成果

利用状況＋教員アンケート（7月）

GIGAスクール構想を理解し機器を活用した効果的授業改善

◎18.8%＋○40.6

ICT機器を活用した授業

週10回以上 35.6%(R2) →50%(R3)



- ・ 少人数のチームにすることで、全教員が当事者であることを意識
- ・ 授業改善に対するモチベーションを維持
- ・ 授業実践に取り組む教員が増加

中間目標に対する現状

①生徒が、自分の考えを他者と共有するスキルを習得している。

→未達成

クラスや選択科目による使用頻度の差が影響

②全教員が端末の基本的な操作方法を習得する。

→未達成

使用頻度の差・・・使用しないと習得まで結びつかない

* 基本操作の習得＝使える

使える：機器の操作 → 使う：「出来ること」の理解と「授業構想力」へ

課題

- 使用頻度の個人差が生じている。→不安、多忙
- 情報の共有が進んでいない。→多忙、直接会話で解決
- 使いたい時に使えない。→一人一台端末がない
- 端末の使用ルールが未整備



- 10分研修、10分共有の充実を図る
- 全員が公開授業
- 公開授業後のチーム内での協議会で、情報共有を活性化
- 端末の使用ルール（生徒用、教員用）の原案作り

生徒の声を意識する

- ・ 回答や、授業などの、資料をICTでやってほしい。
そうすればスマホなどで振り返りができる
- ・ ロイロノートなどを使ってみんなの意見を交換してやる
- ・ マウスがほしい
- ・ クロムブック使うならあらかじめ言って欲しい
- ・ 機械音痴

- ・ PCを使った調べ学習の時間を増やしてほしい
- ・ お互いに情報共有できたらいいな
- ・ プロジェクターを使ってくれるのはありがたいけど逆に話している内容とぐちゃぐちゃになることがある

- ・ 日光が反射してプロジェクターの映像が見にくい
- ・ 教室の廊下側の窓にカーテンをつけたらいいと思います。

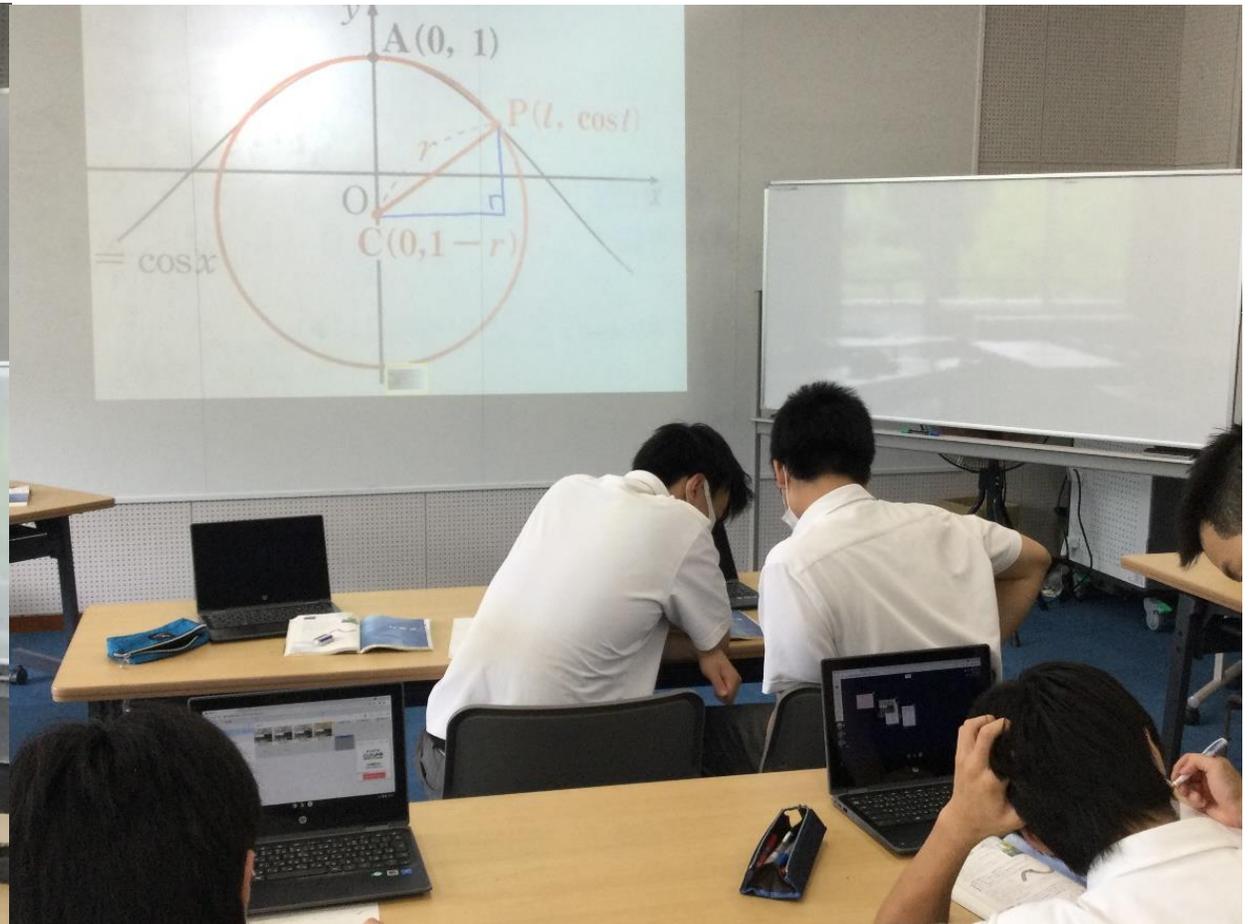
- ・ 生徒が楽しくなるような使い方にしてほしい

- ・ もっと使う機会を増やしてほしい

3.授業実践例

1. Chromebookとロイロノートの併用

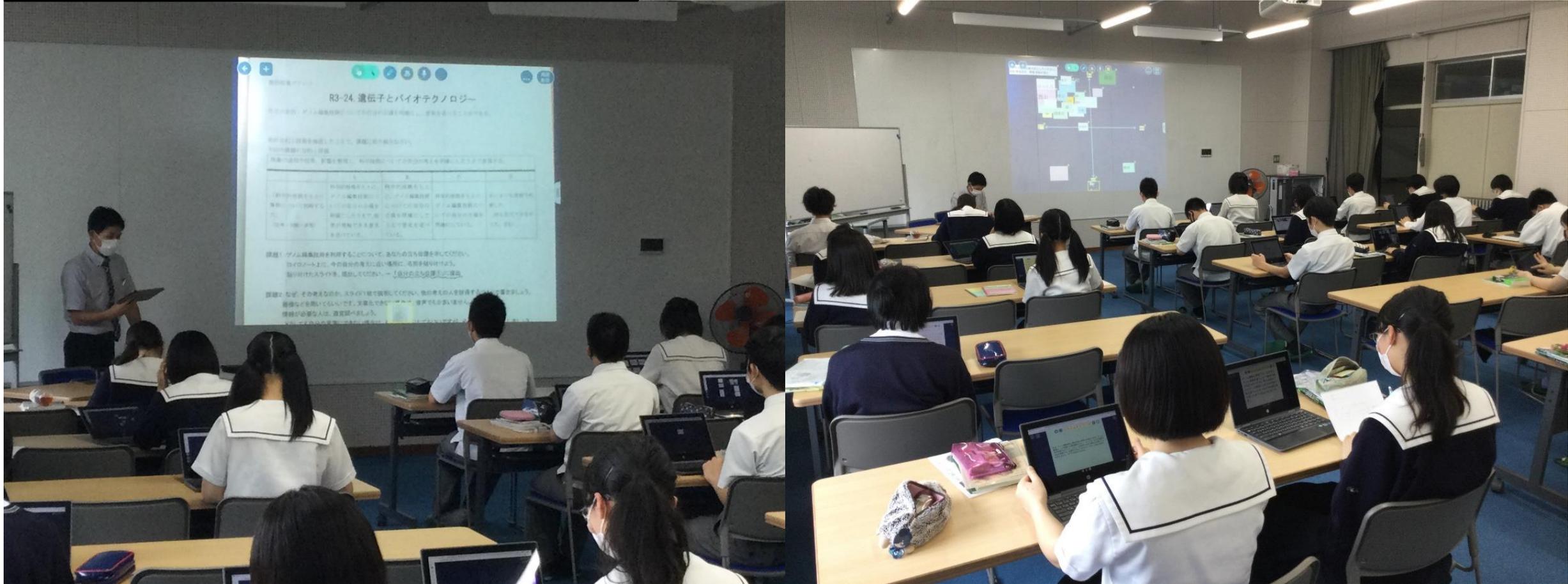
数学Ⅲ：曲率円



Chromebookでロイロノートを使い意見を集約、提示して協議
検討後、再度個人で考え発表

1. Chromebookとロイロノートの併用

生物探究：遺伝子組み換えについての意見



Chromebookでロイロノートを使い意見を集約、協議検討後、意見を再集約

2. 芸術コースでの活用

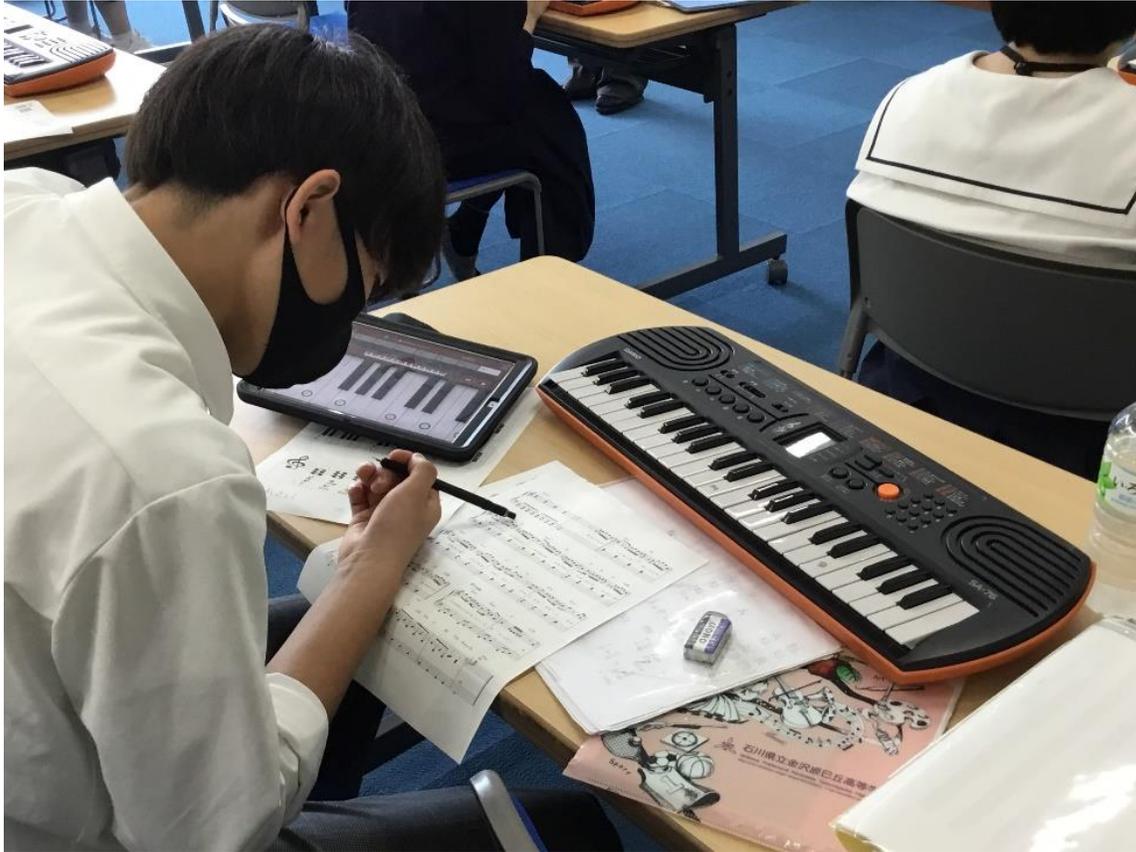
美術：日本画



ipadを使い、モチーフとなるものについての情報を収集、確認し、制作に取り組む

2. 芸術コースでの活用

音楽：音楽理論



ipadで作曲アプリを使い、指定のコードをプログラム後、制作に取り組む

